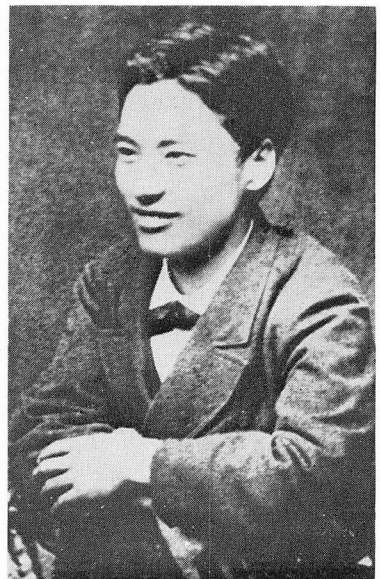


三池炭鉱社



団 琢 磨



益 田 孝

口 絵 解 説

明治二十一年、官営三池鉱山は四五万五〇〇〇円で三井に払下げられた。翌年一月四日付で地所・建物・諸機械その他一切の引継ぎが完了している。三池鉱山局が廃止されて三池炭礦社と改められたが、「諸役員、事業上其他一般ノ事務等ニ至ル迄」従来通り取計うことが指示されている。三池炭礦社は、明治二十五年に三井礦山合資会社が設立されてこれに吸収されるまで、三池炭礦の経営に當った組織で、本部を東京に置いて益田孝（三井物産社長）・西邑庸四郎（三井銀行副長）が委員として総轄した。

三池炭礦の払下げにあたって益田は、嶄新な鉱山学の知識を有し、かつ三池炭礦に精通した技術者を経営の中心につかしめるべく、大蔵大臣松方正義に、団琢磨の三井入りを懇請した。

団琢磨は、安政五年福岡に生まれ、明治四年福岡藩留学生として岩倉大使一行と同船して渡米、ポストン・テクにおいて鉱山学を修めた。明治一年帰国、大阪専門学校、東京大学で教鞭をとったのち、明治一七年工部省鉱山課に出仕、同年五月三池鉱山局に赴任した。三池炭礦の払下げ代金には団の身代金も含まれている、とは良く知られた話である。

ここに紹介する写真（三井鉱山株式会社所蔵）は、三池炭礦社の事務所と、三井三池鉱山の発足に重要な役割を演じた益田孝・団琢磨の当時の肖像である。三池炭礦社の事務所は、三池郡下里村谷尻（大牟田市内）にあった。建物は旧官営三池鉱山局をそのまま引き継いだものである。

（岩 崎）